

令和4年度決算

財務書類

(統一的な基準による地方公会計)



赤磐市

目次

1. 令和4年度 赤磐市財務4表について	1
①財務4表の公表について	1
②作成モデル	1
③財務4表の作成範囲について	2
④財務4表の作成基準及び相互関係	3
2. 財務4表について	4
①貸借対照表	4
②行政コスト計算書	6
③純資産変動計算書	8
④資金収支計算書	10
3. 財務分析について	12
①資産の状況	13
②資産と負債の比率	16
③行政コストの状況	18
④負担の状況	19
⑤受益者負担の状況	21
4. 連結範囲ごとにおける財務四表について	22
①資産・負債の状況	22
②行政コストの状況	23
③純資産変動の状況	24
④資金収支の状況	25
5. 勘定科目解説	26

1. 令和4年度 赤磐市財務4表について

① 財務4表の公表について

平成26年5月に総務省から「今後の地方公会計の整備促進について」(総務大臣通知)が公表されました。資産・債務管理などの内部管理強化と外部への分かりやすい財務情報の開示が不可欠であるとし、国は地方に、複式簿記・発生主義会計の導入と、一般会計等と各種の特別会計及び関係する団体(一部事務組合・広域連合、地方三公社、第三セクター等)を連結した上で財務書類の整備をするよう要請しました。

従来の地方公共団体の会計制度は、1年間の現金の出入りを把握することに重点を置いた単式簿記・現金主義会計を採用していますが、複式簿記・発生主義会計に基づく財務書類を作成することで、現金取引(歳入・歳出)のみならず、すべてのフロー情報(期中の収益・費用及び純資産の内部構成の変動)及びストック情報(資産・負債・純資産の期末残高)を網羅的に把握し、補完します。

本書は、令和4年度決算に基づく一般会計等、全体会計ベースの財務4表の数値を用いて本市の財務状況を分析したものです。

② 作成モデル

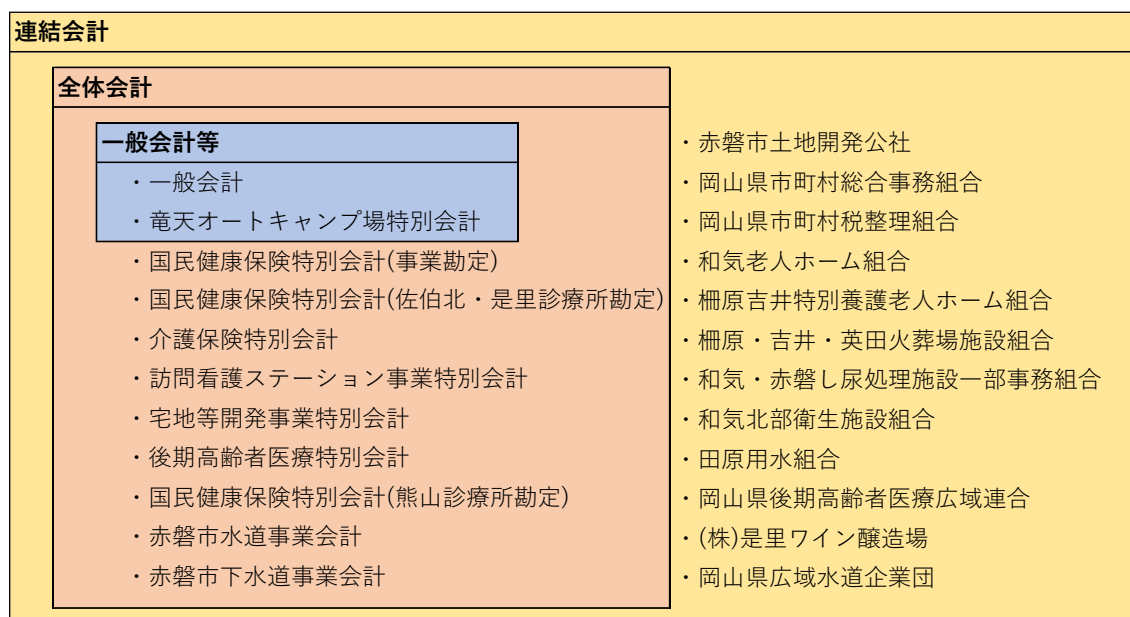
「総務省方式改訂モデル」から統一的な基準への変更点及び効果は以下の通りです。

平成27年度決算以前 「総務省方式改訂モデル」	平成28年度決算以降 (統一的な基準)	導入による効果
決算統計をベースとした簡便的仕訳	執行データに基づく仕訳 (複式簿記・発生主義会計の導入)	事業別・施設別行政コスト計算書の作成が可能
固定資産台帳の整備は任意	固定資産台帳の整備が必須	公共施設等のマネジメントに活用可能
「総務省方式改訂モデル」以外にも複数の作成基準が混在	作成基準を統一	団体間の比較が可能

③ 財務 4 表の作成範囲及び作成基準について

○財務書類の作成範囲

令和 4 年度における財務書類は、「一般会計等」と公営事業会計などの特別会計や公営企業会計を合わせた「全体会計」、本市が関係する関連団体を含めた「連結会計」の 3 つの区分で作成します。



※一部事務組合・広域連合は全て比例連結の対象としています。

※第三セクター等は、出資割合等が 50 % を超える団体（出資割合等が 50 % 以下であっても業務運営に実質的に主導的な立場を確保している団体を含みます。）は、全部連結の対象としています。また、いずれの地方公共団体にとっても全部連結の対象とならない第三セクター等については、出資割合等や活動実績等に応じて、比例連結の対象としています。ただし、出資割合が 25 % 未満であって、損失補償を付している等の重要性がない場合は、比例連結の対象としていない場合があります。

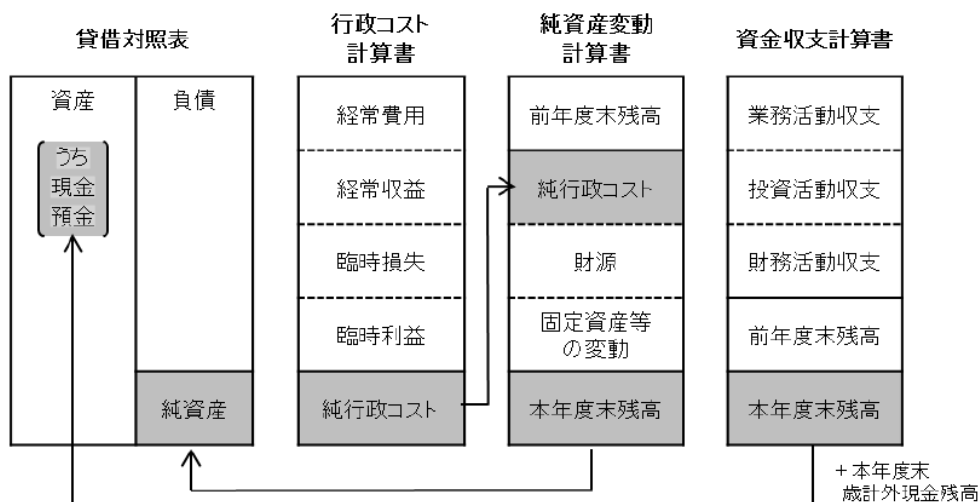
○作成基準

作成基準日については令和 5 年 3 月 31 日です。

出納整理期間(令和 5 年 4 月 1 日から令和 5 年 5 月 31 日まで)の入出金については作成基準日までに終了したものとして処理をしております。

④ 財務 4 表の相互関係

【財務書類 4 表構成の相互関係】



- ※1 貸借対照表の資産のうち「現金預金」の金額は、資金収支計算書の本年度末残高に本年度末歳計外現金残高を足したものと対応します。
- ※2 貸借対照表の「純資産」の金額は、純資産変動計算書の本年度末残高と対応します。
- ※3 行政コスト計算書の「純行政コスト」の金額は、純資産変動計算書に記載されます。

抜粋:総務省「統一的な基準による地方公会計マニュアル」

財務書類作成にあたっての基礎知識 P.11

財務 4 表の相互関係について

行政コスト計算書では、経常的な行政サービスを提供することで発生するコスト(経常費用)から受益者負担(経常収益)と臨時損益を控除し、税金や交付税等で賄われるべき純行政コストが算出されます。この純行政コストは一年間の純資産項目の変動状況を示す純資産変動計算書の一項目とされ、純資産変動計算書により算出された期末純資産残高は、貸借対照表の純資産合計と一致します。また、資金収支計算書では一年間の資金の収入から支出を控除し、期首の資金残高に加えて、年度末の資金残高を算出し、その期末資金残高に歳計外現金の期末残高を合算した金額が、貸借対照表記載の現金預金と一致します。

2. 財務 4 表について

①貸借対照表

○貸借対照表(BS:Balance Sheet)とは

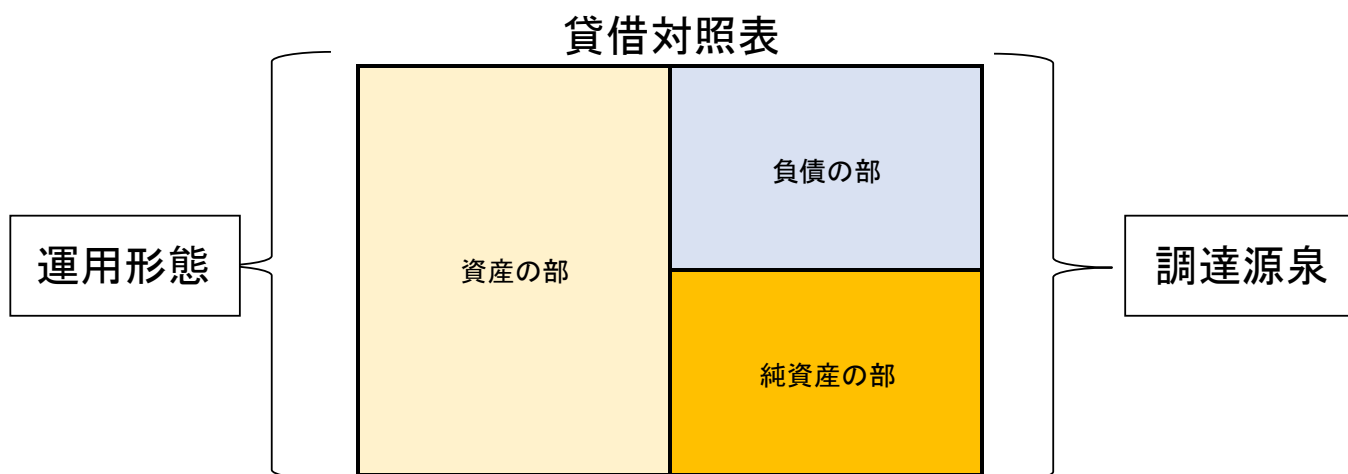
貸借対照表とは年度末時点で本市が所有する「資産」・「負債」・「純資産」の残高を示し、本市の財政状態を示すものです。

資産の部・・・資金や金融資産と将来の世代に引き継ぐ社会資本の金額を示すものです。また資本の運用形態を表すものとなります。

負債の部・・・将来世代が負担しなければならない金額を示しています。

純資産の部・・・これまでの世代が負担した金額を示しています。また負債の部と純資産の部の合計は資本の調達源泉を表すものとなります。

本市においては、令和 4 年度時点で資産額が 500.4 億円、負債額が 194.9 億円あり、資産のうち約 39%が将来世代への負担で形成されております。純資産額は 305.4 億円あり、資産のうち約 61%が現役世代の負担で形成されております。



○令和4年度貸借対照表(一般会計等)

【様式第1号】

貸借対照表

(令和5年3月31日現在)

自治体名:赤磐市

会計:一般会計等

(単位:円)

科目	金額	科目	金額
【資産の部】		【負債の部】	
固定資産	41,905,839,999	固定負債	17,039,780,502
有形固定資産	34,280,531,592	地方債	16,153,890,172
事業用資産	20,959,611,359	長期未払金	-
土地	8,546,233,451	退職手当引当金	871,067,830
立木竹	-	損失補償等引当金	-
建物	35,808,645,741	その他	14,822,500
建物減価償却累計額	-24,564,775,197	流動負債	2,453,528,310
工作物	2,992,665,374	1年内償還予定地方債	2,114,407,655
工作物減価償却累計額	-1,966,745,610	未払金	486,600
船舶	-	未払費用	-
船舶減価償却累計額	-	前受金	-
浮標等	-	前受収益	-
浮標等減価償却累計額	-	賞与等引当金	244,705,166
航空機	-	預り金	87,015,421
航空機減価償却累計額	-	その他	6,913,468
その他	-	負債合計	19,493,308,812
その他減価償却累計額	-	【純資産の部】	
建設仮勘定	143,587,600	固定資産等形成分	49,442,028,142
インフラ資産	12,922,334,729	余剰分(不足分)	-18,899,712,225
土地	902,412,867		
建物	87,237,374		
建物減価償却累計額	-12,430,772		
工作物	31,094,552,119		
工作物減価償却累計額	-19,315,703,257		
その他	-		
その他減価償却累計額	-		
建設仮勘定	166,266,398		
物品	2,727,053,633		
物品減価償却累計額	-2,328,468,129		
無形固定資産	13,794,028		
ソフトウェア	13,794,028		
その他	-		
投資その他の資産	7,611,514,379		
投資及び出資金	2,937,122,349		
有価証券	11,232,400		
出資金	2,925,889,949		
その他	-		
投資損失引当金	-		
長期延滞債権	347,890,532		
長期貸付金	-		
基金	4,333,856,386		
減債基金	-		
その他	4,333,856,386		
その他	-		
徴収不能引当金	-7,354,888		
流動資産	8,129,784,730		
現金預金	544,552,832		
未収金	50,855,438		
短期貸付金	-		
基金	7,536,188,143		
財政調整基金	7,243,466,350		
減債基金	292,721,793		
棚卸資産	-		
その他	-		
徴収不能引当金	-1,811,683	純資産合計	30,542,315,917
資産合計	50,035,624,729	負債及び純資産合計	50,035,624,729

②行政コスト計算書

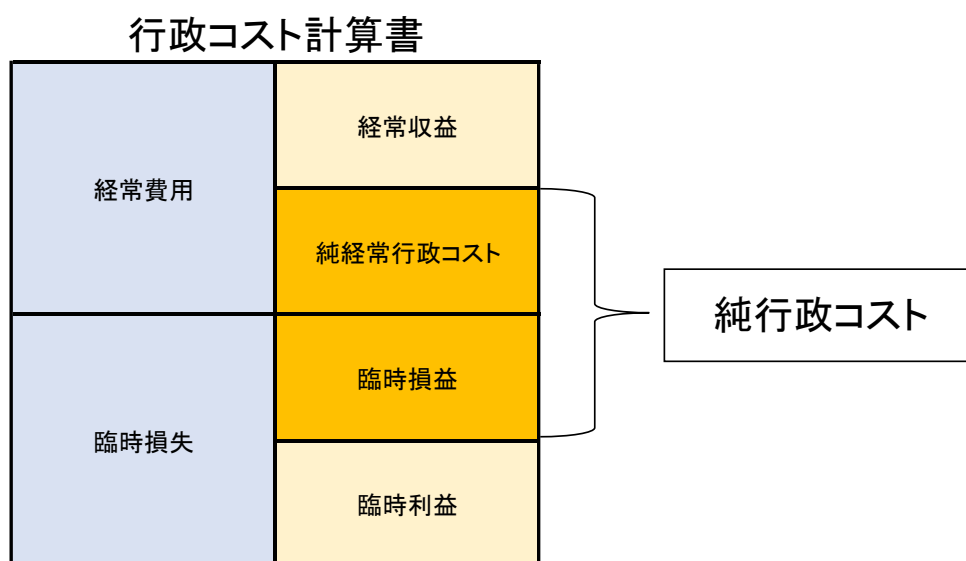
○行政コスト計算書(PL:Profit and Loss statement)とは

行政コスト計算書とは1年間の行政活動で、福祉サービスや職員の人件費にかかる経費など資産形成に繋がらない行政サービスに費やしたコストと公民館等の使用料や手数料等の収益を示すものです。「経常費用」・「経常収益」・「臨時損失」・「臨時利益」の区分で表示されます。

「経常費用」・「経常収益」は、毎会計年度経常的に発生する費用及び収益を表します。「経常費用」・「経常収益」の差額が「純経常行政コスト」として表示されます。

「臨時損失」・「臨時利益」は、費用・収益の定義に該当するもののうち、臨時的に発生する収益・費用を表します。資産の除売却損益や災害復旧事業費などが該当します。上記、「純経常行政コスト」に「臨時損失」・「臨時利益」を加減算したものが「純行政コスト」として表示されます。

本市においては、令和4年度の純経常行政コストが183.7億円あり、自治体を一年間運営する経常的なコストが183.7億円かかることを表しております。資産の解体費用や除売却などの臨時的な経費を含んだ臨時損失額が0.1億円、資産の売却益などの臨時的な収益を含んだ臨時利益額が1.5億円あり、一年間の純粋なコストである純行政コストが182.3億円となっております。



○令和4年度行政コスト計算書(一般会計等)

【様式第2号】

行政コスト計算書

自 令和4年4月1日
至 令和5年3月31日

自治体名:赤磐市
会計:一般会計等

(単位:円)

科目	金額
経常費用	18,851,067,537
業務費用	10,585,172,169
人件費	3,880,457,613
職員給与費	2,919,594,020
賞与等引当金繰入額	244,705,166
退職手当引当金繰入額	105,920,457
その他	610,237,970
物件費等	6,419,444,447
物件費	4,585,162,213
維持補修費	244,014,303
減価償却費	1,590,267,931
その他	-
その他の業務費用	285,270,109
支払利息	80,177,360
徴収不能引当金繰入額	5,287,040
その他	199,805,709
移転費用	8,265,895,368
補助金等	3,788,001,701
社会保障給付	1,992,509,831
他会計への繰出金	2,479,582,552
その他	5,801,284
経常収益	480,001,907
使用料及び手数料	203,785,578
その他	276,216,329
純経常行政コスト	18,371,065,630
臨時損失	12,024,720
災害復旧事業費	6,254,926
資産除売却損	5,769,794
投資損失引当金繰入額	-
損失補償等引当金繰入額	-
その他	-
臨時利益	153,492,512
資産売却益	153,492,512
その他	-
純行政コスト	18,229,597,838

③純資産変動計算書

○純資産変動計算書(NW:Net Worth statement)とは

貸借対照表のうち「純資産」の部に計上されている数値が 1 年間でどのように変動(増減)したかを示すものです。「本年度差額」と「固定資産等の変動(内部変動)」、「その他」の区分で表示されます。

「本年度差額」は「純行政コスト」と「財源」により構成されます。「純行政コスト」は前述の行政コスト計算書の数値と一致します。「財源」は地方税、地方交付税等の「税収等」と国や県からの補助金である「国県等補助金」で構成されます。

「固定資産等の変動(内部変動)」は、「有形固定資産等の増加」、「有形固定資産等の減少」、「貸付金・基金等の増加」及び「貸付金・基金等の減少」に分類され、その内訳については、固定資産形成分と余剰分(不足分)について正負が必ず逆になります。

「その他」は「資産評価差額」、「無償所管換等」などに分類されます。

「有形固定資産等の増加」・・・有形固定資産及び無形固定資産の形成のために支出した金額を表示します。

「有形固定資産等の減少」・・・有形固定資産及び無形固定資産の減価償却費相当額及び除売却による減少額を表示します。

「貸付金・基金等の増加」・・・新たな貸付金・基金等のために支出した金額を表示します。

「貸付金・基金等の減少」・・・貸付金の償還及び基金の取崩等による減少額を表示します。

「資産評価差額」・・・その他有価証券や固定資産の評価差額金又は再評価額を表示します。

「無償所管換等」・・・固定資産の寄附入、寄附出、調査判明等の増減額を表示します。

本市においては、純行政コストから財源を差引いた数字である令和4年度の本年度差額が7.2億円であり、税収等や国県等補助金の財源で一年間のコストがまかなえたことを表しております。また固定資産の寄付額等を含めた無償所管換等を加えた本年度純資産変動額が6.7億円あり、純資産額が前年度に比べ増加していることを表しております。

○令和4年度純資産変動計算書(一般会計等)

【様式第3号】

純資産変動計算書

自 令和4年4月1日
至 令和5年3月31日

自治体名:赤磐市
会計:一般会計等

(単位:円)

科目	合計	固定資産 等形成分	余剰分 (不足分)
前年度末純資産残高	29,875,851,401	49,855,376,053	-19,979,524,652
純行政コスト(△)	-18,229,597,838		-18,229,597,838
財源	18,952,557,520		18,952,557,520
税収等	13,902,206,566		13,902,206,566
国県等補助金	5,050,350,954		5,050,350,954
本年度差額	722,959,682		722,959,682
固定資産等の変動(内部変動)		-356,852,745	356,852,745
有形固定資産等の増加		995,655,409	-995,655,409
有形固定資産等の減少		-1,592,120,455	1,592,120,455
貸付金・基金等の増加		1,175,398,762	-1,175,398,762
貸付金・基金等の減少		-935,786,461	935,786,461
資産評価差額	-	-	-
無償所管換等	-56,495,166	-56,495,166	-
その他	-	-	-
本年度純資産変動額	666,464,516	-413,347,911	1,079,812,427
本年度末純資産残高	30,542,315,917	49,442,028,142	-18,899,712,225

④資金収支計算書

○資金収支計算書(CF:Cash Flow statement)とは

資金収支計算書とは1年間の資金の流れを示すもので、性質に区分して、収入と支出を示し、どのような活動に資金が使われたかを示します。「業務活動収支」、「投資活動収支」、「財務活動収支」の3区分で表示されます。

「業務活動収支」・・・税金や補助金収入、使用料、手数料などの収入、人件費や需要費、補助金、扶助費などの支出で投資活動・財務活動以外の現金の収入及び支出を表します。

「投資活動収支」・・・固定資産の取得、基金の積み立てによる支出や固定資産の売却、基金の取崩による収入の投資的な活動における現金の収入及び支出を表します。

「財務活動収支」・・・地方債の借り入れによる収入や地方債の償還による支出等の資金の調達及び返済による財務的な活動における現金の収入及び支出を表します。

本市においては、令和4年度の業務活動収支が19.7億円、投資活動収支が約△7.7億円あり、投資活動の支出を業務活動でまかなえています。また財務活動収支は約△11.4億円であり、借金である地方債において発行額より償還額が多かったことを表しております。

資金収支計算書

業務活動収支
投資活動収支
財務活動収支

○令和4年度資金収支計算書(一般会計等)

【様式第4号】

資金収支計算書

自 令和4年4月1日
至 令和5年3月31日

自治体名:赤磐市

会計:一般会計等

(単位:円)

科目	金額
【業務活動収支】	
業務支出	17,132,913,510
業務費用支出	8,866,868,742
人件費支出	3,756,111,910
物件費等支出	4,834,071,616
支払利息支出	80,177,360
その他の支出	196,507,856
移転費用支出	8,266,044,768
補助金等支出	3,788,001,701
社会保障給付支出	1,992,509,831
他会計への繰出支出	2,479,582,552
その他の支出	5,950,684
業務収入	19,105,951,423
税金等収入	13,792,350,170
国県等補助金収入	4,831,699,368
使用料及び手数料収入	203,492,928
その他の収入	278,408,957
臨時支出	6,254,926
災害復旧事業費支出	6,254,926
その他の支出	-
臨時収入	-
業務活動収支	1,966,782,987
【投資活動収支】	
投資活動支出	2,168,102,448
公共施設等整備費支出	995,655,409
基金積立金支出	1,162,507,039
投資及び出資金支出	9,940,000
貸付金支出	-
その他の支出	-
投資活動収入	1,395,978,941
国県等補助金収入	218,651,586
基金取崩収入	929,286,410
貸付金元金回収収入	2,380,607
資産売却収入	154,470,342
その他の収入	91,189,996
投資活動収支	-772,123,507
【財務活動収支】	
財務活動支出	2,183,164,509
地方債償還支出	2,178,082,509
その他の支出	5,082,000
財務活動収入	1,046,683,000
地方債発行収入	1,046,683,000
その他の収入	-
財務活動収支	-1,136,481,509
本年度資金収支額	58,177,971
前年度末資金残高	399,359,440
本年度末資金残高	457,537,411
前年度末歳計外現金残高	96,027,846
本年度歳計外現金増減額	-9,012,425
本年度末歳計外現金残高	87,015,421
本年度末現金預金残高	544,552,832

3. 財務分析について

作成した財務書類を基に行った財務分析について報告いたします。以下では、各指標の3ヵ年分の数値を基に、経年比較を行っています。

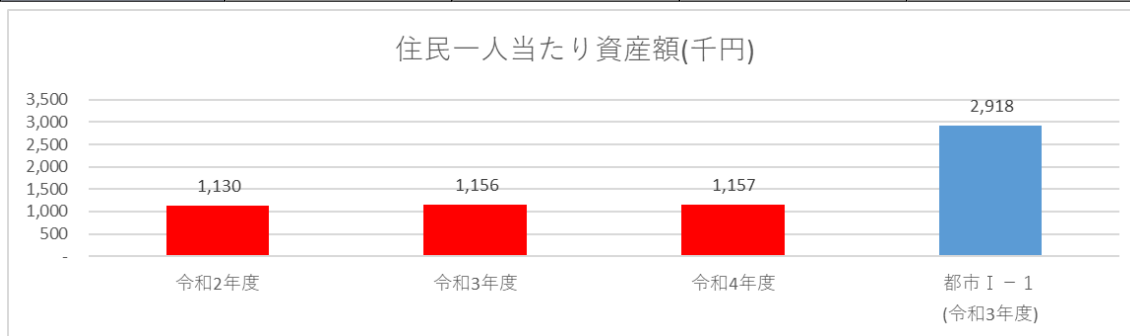
分析の視点	住民等のニーズ	指標
資産の状況	将来世代に残る資産はどのくらいあるか	・住民一人当たり資産額 ・歳入額対資産比率 ・有形固定資産減価償却率
資産と負債の比率	将来世代と現世代との負担の分担は適切か	・純資産比率 ・将来世代負担比率
行政コストの状況	行政サービスは効率的に提供されているか	・住民一人当たり行政コスト
負債の状況	財政に持続可能性があるか (どのくらい借金があるか)	・住民一人当たり負債額 ・基礎的財政収支
受益者負担の状況	歳入はどのくらい税金等で賄えているか (受益者負担の水準はどうなっているか)	・受益者負担比率

①資産の状況「将来世代に残る資産はどのくらいあるか」

1.住民一人当たり資産額

【資産合計÷住民基本台帳人口】

	赤磐市			類似団体
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	都市Ⅰ-1 (令和3年度)
資産合計(千円)	49,640,363	50,389,730	50,035,625	
人口(人)	43,925	43,602	43,244	
当該値(千円)	1,130	1,156	1,157	2,918



市が保有する資産額を住民人口で除して、一人当たりの金額の算出をしたものです。

本市においては、令和4年度時点で1,157千円となっており、前年度と比較すると1千円増加しています。これは、資産額の減少度合いと人口の減少度合いがほぼ同じであることによるものです。資産額の減少については、流動資産内の資金及び財政調整基金が増加しておりますが、この増加を上回るほどに有形固定資産の減価償却費により資産価値が減少しております。

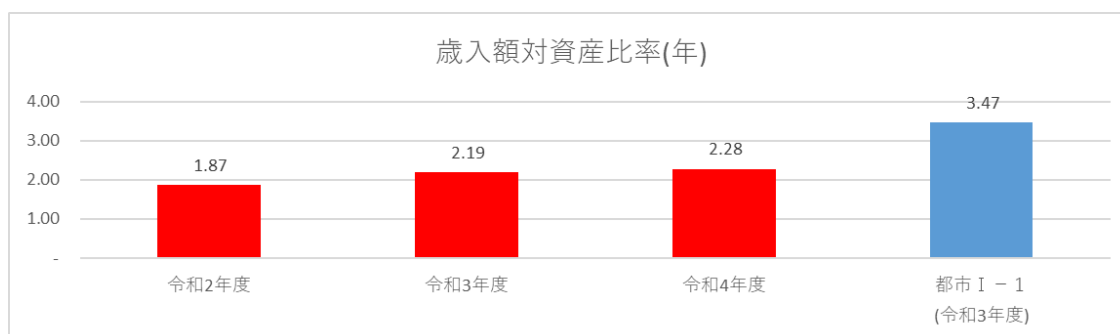
令和2年度から令和3年度における当該値の増加は資産額の増加によるもので、学校施設の耐震補強工事及び空調設備更新工事により建物・建物附属設備の増加を要因としていました。

類似団体の平均値と比較すると1,761千円低く、半分以下の数値を示しています。

2.歳入額対資産比率

【資産合計÷歳入総額】

	赤磐市			類似団体
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	都市Ⅰ-1 (令和3年度)
資産合計(千円)	49,640,363	50,389,730	50,035,625	
歳入総額(千円)	26,607,179	23,052,461	21,947,973	
当該値(年)	1.87	2.19	2.28	3.47



本年度の歳入総額に対する資産の比率を示したものです。これまで取得した資産が、歳入の何年度分に相当するかを表したものです。

本市においては、令和4年度時点で2.28年となっており、前年度と比較すると0.09年増加しています。これは、資産額の減少度合いよりも歳入額の減少度合いのほうが大きかったことによるものです。歳入減少の主な要因としては国県等補助金による収入が減少したことによるものです。

令和2年度から令和3年度における当該値の増加も歳入額の減少が主な要因であり、国庫支出金の減少、財政調整基金からの繰入額の減少によるものでした。

類似団体の平均値と比較すると、1.19年短い数値を示しています。

住民一人当たりの資産額における類似団体の平均値との比較結果と併せて、本市は資産額が少ないことを表しています。

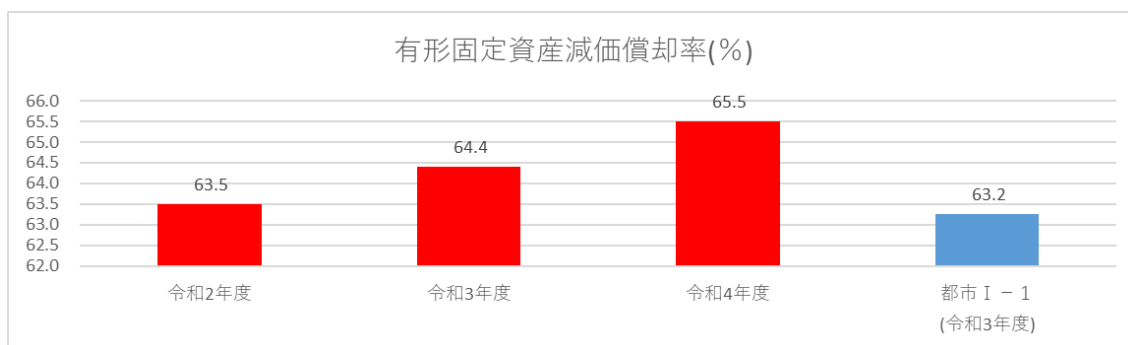
3.有形固定資産減価償却率

【減価償却累計額÷(有形固定資産合計-土地等の非償却資産+減価償却累計額)】

※土地等の非償却資産・・・貸借対照表の事業用資産の土地、立木竹、建設仮勘定、インフラ資産の土地、建設仮勘定及び物品の合計

	赤磐市			類似団体
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	都市I-1 (令和3年度)
減価償却累計額(千円)	43,056,308	44,429,454	45,859,655	
有形固定資産(千円) ※1	67,753,782	69,026,082	69,983,101	
当該値(%)	63.5	64.4	65.5	63.2

※1 有形固定資産合計-土地等の非償却資産+減価償却累計額



土地や建設仮勘定等の非償却資産以外の有形固定資産を一定の耐用年数によって減価償却を実施した場合、年度末における資産がどれだけ老朽化したか表す指標です。100%に近いほど老朽化が進んでいることを表します。

本市においては、令和4年度時点で65.5%となっており、前年度と比較すると1.1%老朽化が進行しています。令和4年度では令和2年度、令和3年度と比較して新たに取得した有形固定資産額が減少しているため、これまでよりもわずかに急な変動になっています。

類似団体の平均値と比較すると、2.3%高い数値を示しています。

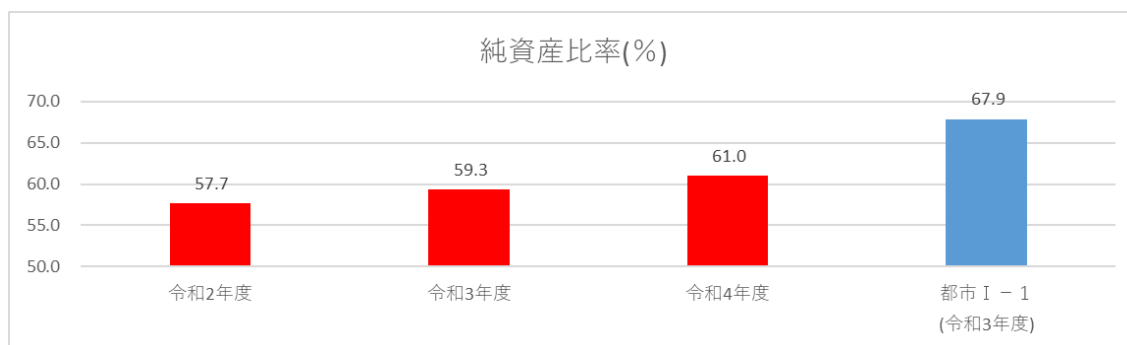
修繕や維持補修を行っていても、資本的支出と見なされなければ費用処理となり、固定資産台帳へ金額反映されないため、あくまで有形固定資産減価償却率は概算の数値となっています。

②資産と負債の比率「将来世代と現世代との負担の分担は適切か」

1.純資産比率

【純資産合計÷資産合計】

	赤磐市			類似団体
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	都市Ⅰ－Ⅰ (令和3年度)
純資産(千円)	28,655,127	29,875,851	30,542,316	
資産合計(千円)	49,640,363	50,389,730	50,035,625	
当該値(%)	57.7	59.3	61.0	67.9



市が所有する資産のうち、現世代の住民で負担している割合を示すものとなります。

本市においては、令和4年度時点で61.0%となっており、前年度と比較すると1.7%増加しています。これは地方債残高の減少によるものです。直近3年では地方債残高が減少し続けています。

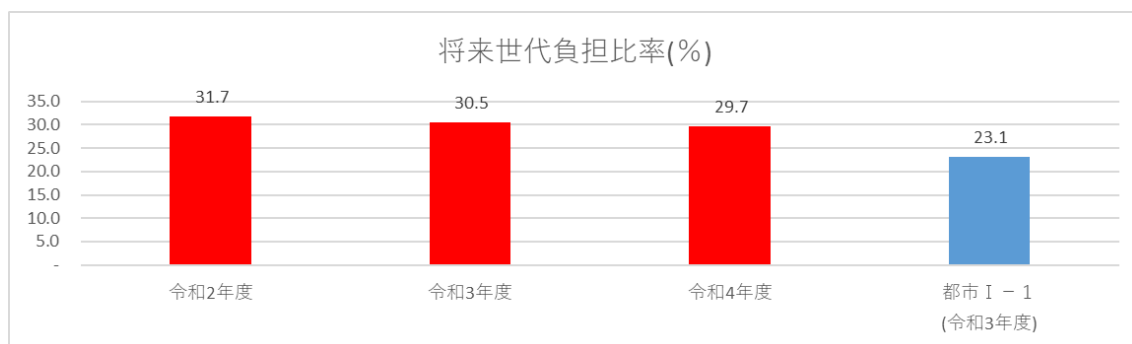
地方債以外の負債には退職手当引当金、賞与等引当金がありますが、どちらも前年度に引き続き増加しています。

類似団体の平均値と比較すると、6.9%低い数値を示しています。この指標が低いということは将来世代へ負担が大きくなっているといえます。資産の老朽化が進めばさらに比率が低下していくこととなりますので、今後さらに世代間のバランスを見ながら資産の更新や形成を行っていく必要があるといえます。

2.将来世代負担比率

【地方債合計÷有形・無形固定資産合計】

	赤磐市			類似団体
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	都市Ⅰ-1 (令和3年度)
地方債残高(千円)	11,085,694	10,664,910	10,177,240	
有形・無形固定資産合計	34,929,235	34,947,286	34,294,326	
当該値(%)	31.7	30.5	29.7	23.1



市が保有する社会資本等の財源のうち、将来償還が必要な負債が占める割合を算出することにより、社会資本等形成に係る将来世代の負担の比率を把握することができます。純資産比率は貸借対照表における全ての資産と純資産の割合であるのに対して、この指標は有形・無形固定資産と地方債に着目して算出しています。

本市においては、令和4年度時点で29.7%となっており、前年度と比較すると0.8%減少しています。これは前述の通り地方債残高の減少によるものです。直近3年では地方債残高が減少し続けています。

類似団体の平均値と比較すると、6.6%高い数値を示しています。

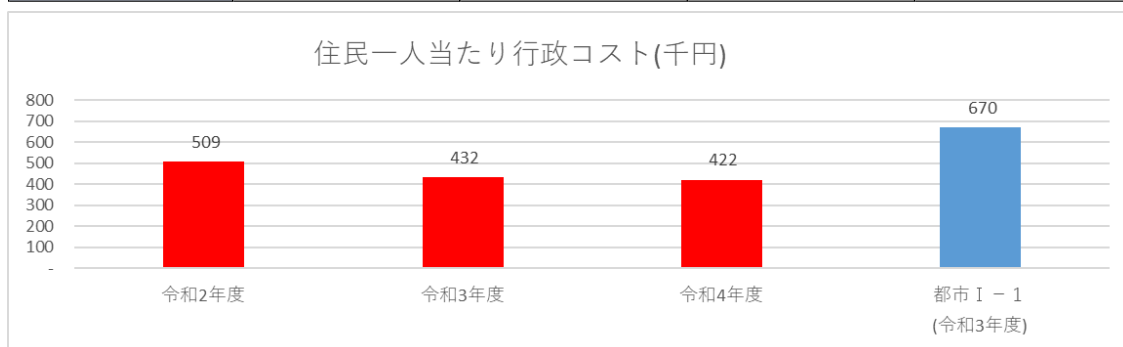
公共施設等のあり方の見直しについて、議会や住民と情報共有を行いながら進めていく必要があります。

③行政コストの状況 「行政サービスは効率的に提供されているか」

1.住民一人当たり行政コスト

【純行政コスト÷住民基本台帳人口】

	赤磐市			類似団体
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	都市Ⅰ-1 (令和3年度)
純行政コスト(千円)	22,362,900	18,829,165	18,229,598	
人口(人)	43,925	43,602	43,244	
当該値(千円)	509	432	422	670



行政コストが住民一人当たりいくらかかっているかを示す指標です。

本市においては、令和4年度時点で422千円となっており、前年度と比較すると10千円減少しております。これは、純行政コストの減少によるものです。特に補助金等内の子育て世帯への生活支援特別給付金・臨時特別給付金及び民間保育所等施設整備事業補助金が減少していることによるものです。また、その他(経常収益)内のコロナ対策持続化支援金等の返還金、地域海洋センター修繕助成金が増加していることも要因に含まれます。

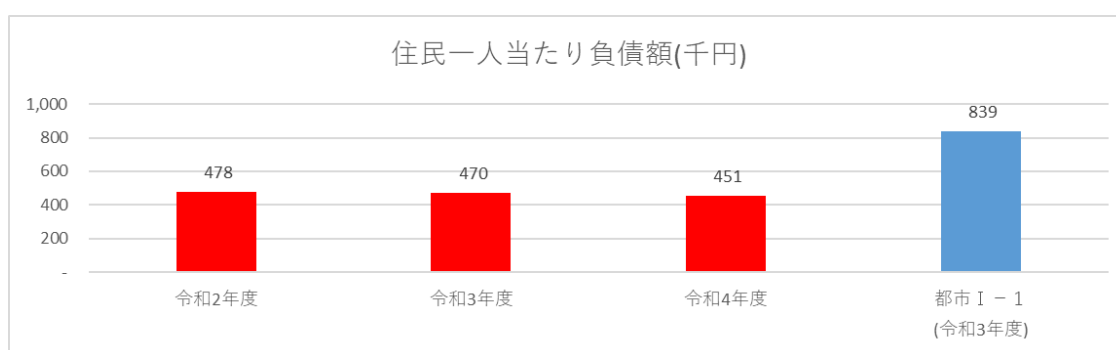
類似団体の平均値と比較すると248千円低い数値を示しています。類似団体と比較して固定資産額が少ないため、減価償却費も少ないことが要因です。

④負債の状況「財政に持続可能性があるか」

1.住民一人当たり負債額

【負債合計÷住民基本台帳人口】

	赤磐市			類似団体
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	都市I-1 (令和3年度)
負債合計(千円)	20,985,236	20,513,879	19,493,309	
人口(人)	43,925	43,602	43,244	
当該値(千円)	478	470	451	839



負債が住民一人当たりいくらあるのかを示し、住民一人当たりの資産額などと対比し、財政の健全性を検討する指標です。

本市においては、令和4年度時点で451千円となっており、前年度と比較すると19千円減少しています。これは、人口の減少度合いよりも負債である地方債の減少度合いのほうが大きかったことによるものです。前述の通り直近3年では地方債残高が減少し続けています。

類似団体の平均値と比較すると、388千円低い数値を示しています。

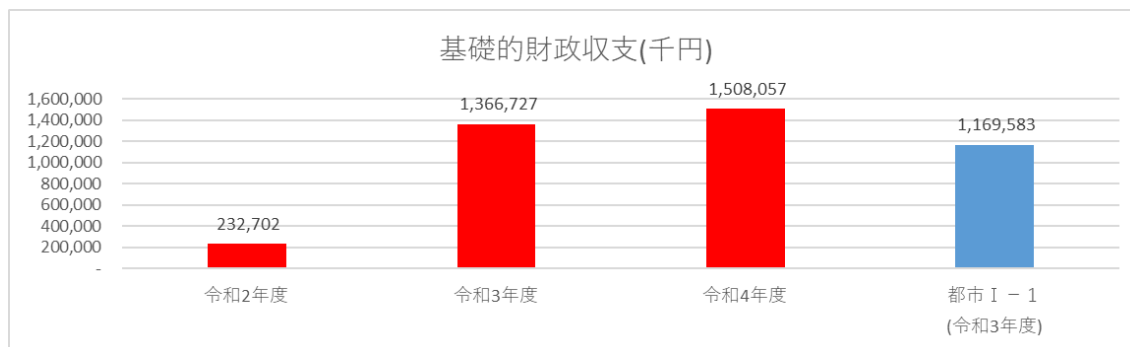
地方債残高は減少傾向にあるため、今後も当該値は低くなると予測されます。

2. 基礎的財政収支

【業務活動収支(支払利息支出を除く) + 投資活動収支(基金を除く)】

	赤磐市			類似団体
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	都市 I - 1 (令和3年度)
業務活動収支(千円) ※1	1,369,532	2,443,151	2,046,960	
投資活動収支(千円) ※2	-1,136,830	-1,076,424	-538,903	
当該値(千円)	232,702	1,366,727	1,508,057	1,169,583

※1 支払利息支出を除く。 ※2 基金積立金支出及び基金取崩収入を除く。



業務活動収支(支払利息を除く)と投資活動収支(基金を除く)の合計額で計算されます。

本市においては、令和4年度時点で1,508,057千円の黒字となっており、前年度と比較すると収支が141,330千円増加しています。

令和4年度においては、前述の通り国県等補助金の減少によって業務活動収支が減少しているものの、投資活動収支が増加しています。投資活動収支については、公共施設等整備費支出の減少が影響しています。令和3年度では建設仮勘定の取得が多く、すでに前払金を支出していたためか令和4年度の公共施設等整備費支出は抑えられていました。

類似団体の平均値と比較すると、338,474千円高い数値を示しています。

当該指標は、年度ごとの施策に大きく影響を受け、特に大型の設備投資を行った年度は、多額の赤字が発生する傾向にあります。特定の年度に赤字が発生しても、財政が危機的状況にあるわけではない点に留意が必要です。

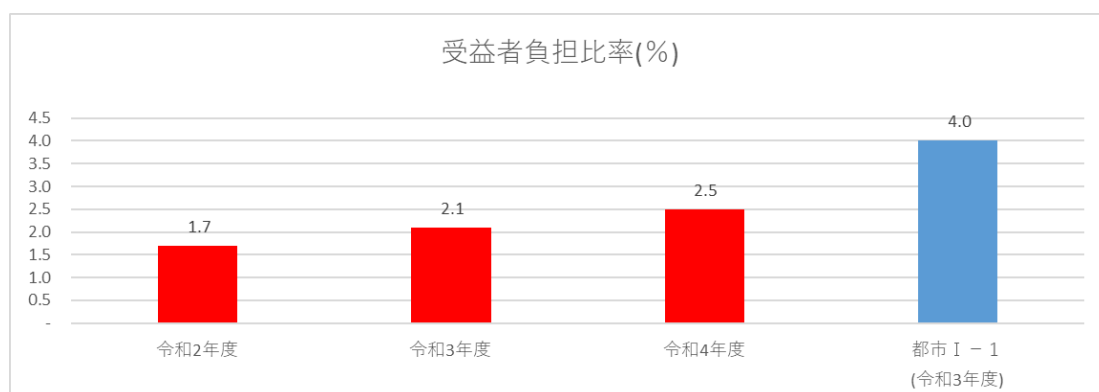
本庁舎の改修工事後も中央公民館や山陽保健センターの改修工事があるため、引き続き大きく変動があることが予想されます。

⑤受益者負担の状況「受益者負担の水準はどうなっているか」

1.受益者負担比率

【経常収益÷経常費用】

	赤磐市			類似団体
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	都市Ⅰ-Ⅰ (令和3年度)
経常収益(千円)	385,452	408,945	480,002	
経常費用(千円)	22,743,682	19,230,412	18,851,068	
当該値(%)	1.7	2.1	2.5	4.0



市の経常費用のうち、サービスの受益者が直接的に負担するコストの比率です。

本市においては令和4年度時点で2.5%となっており、前年度と比較して0.4%増加しています。これは、経常費用の減少及び経常収益の増加が要因で、補助金等の減少及びその他(経常収益)の増加によるものです。

類似団体の平均値と比較すると、1.5%低い数値を示しています。

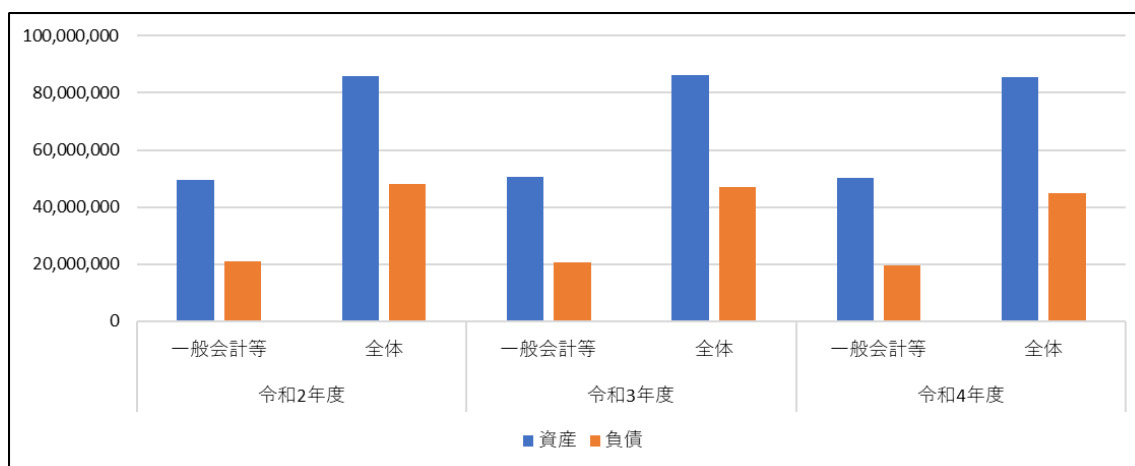
減価償却費も含めたコストに基づいた、施設使用料の見直しなどにより施設ごとの受益者負担の適正化に努めることが大切です。

4.連結範囲ごとにおける財務四表について

①資産・負債の状況

(単位：千円)

		赤磐市		
		令和2年度	令和3年度	令和4年度
一般会計等	資産	49,640,363	50,389,730	50,035,628
	負債	20,985,236	20,513,879	19,493,309
全体	資産	85,865,601	86,398,118	85,648,218
	負債	48,234,009	46,951,019	44,924,028

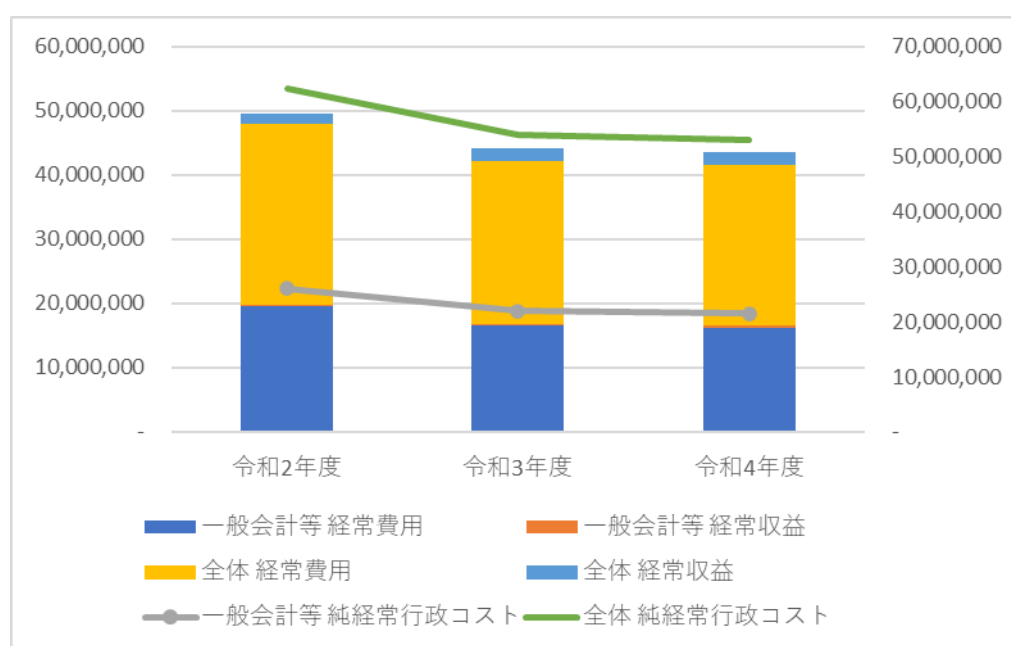


一般会計等においては、資産額は 50,035,628 千円となり、前年度と比べ 354,102 千円減少しております。これは有形固定資産減価償却による資産価値の減少が主な要因です。負債額は 19,493,309 千円となり、前年度と比べ 1,020,570 千円減少しております。これは一般会計等の地方債の償還が進んだことが主な要因です。

全体会計においては、資産額は 85,648,218 千円となり、前年度と比べ 749,900 千円の減少となりました。負債額は 44,924,028 千円となり、前年度と比べ 2,026,991 千円の減少となりました。これは一般会計等同様地方債の減少が主な要因です。

②行政コストの状況

		赤磐市		
		令和2年度	令和3年度	令和4年度
一般会計等	経常費用	22,743,682	19,230,412	18,851,068
	経常収益	385,452	408,945	480,002
	純経常行政コスト	22,358,230	18,821,467	18,371,066
全体	経常費用	32,918,992	29,577,082	29,261,672
	経常収益	1,867,533	2,179,838	2,119,572
	純経常行政コスト	31,051,459	27,397,244	27,142,099



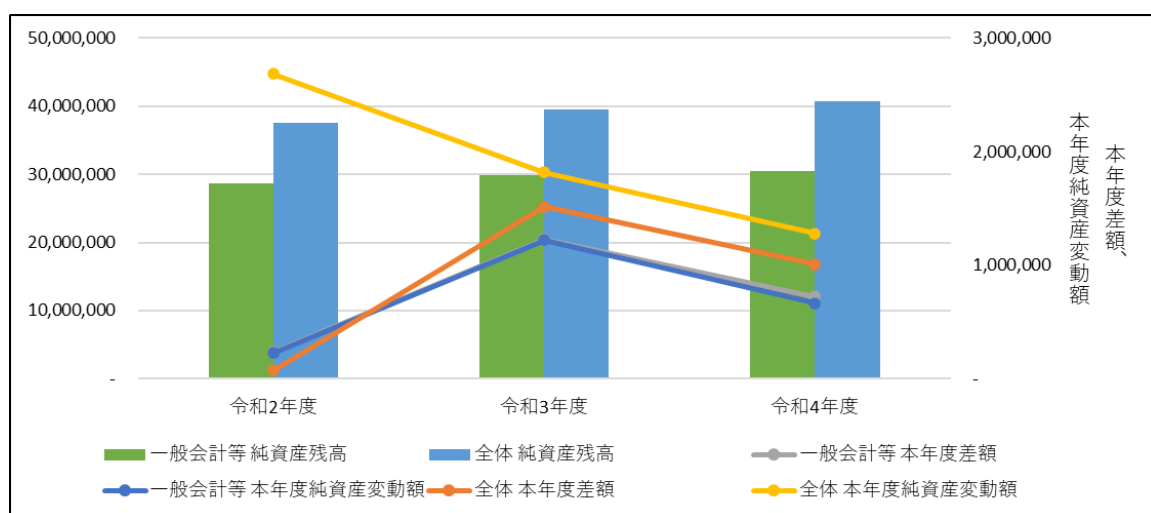
一般会計等においては、経常費用は18,851,068千円となり、前年度と比べ379,345千円減少しております。これは補助金等の減少が主な要因です。経常収益480,002千円となり、前年度と比べ70,157千円の増加しております。これはその他(経常収益)の減少が主な要因です。

全体会計においては、経常費用は29,261,672千円となり、前年度と比べ315,411千円減少しております。これは一般会計等同様補助金等の減少、また維持補修費の減少が主な要因です。経常収益は2,119,572千円となり、前年度と比べ60,266千円減少しております。これは水道事業及び下水道事業の使用料及び手数料の減少が主な要因です。

③純資産変動の状況

(単位：千円)

		赤磐市		
		令和2年度	令和3年度	令和4年度
一般会計等	本年度差額	235,786	1,228,051	722,960
	本年度純資産変動額	223,488	1,220,724	666,465
	純資産残高	28,655,127	29,875,851	30,542,316
全体	本年度差額	69,835	1,514,761	1,007,500
	本年度純資産変動額	2,682,996	1,815,507	1,277,091
	純資産残高	37,631,592	39,447,099	40,724,190



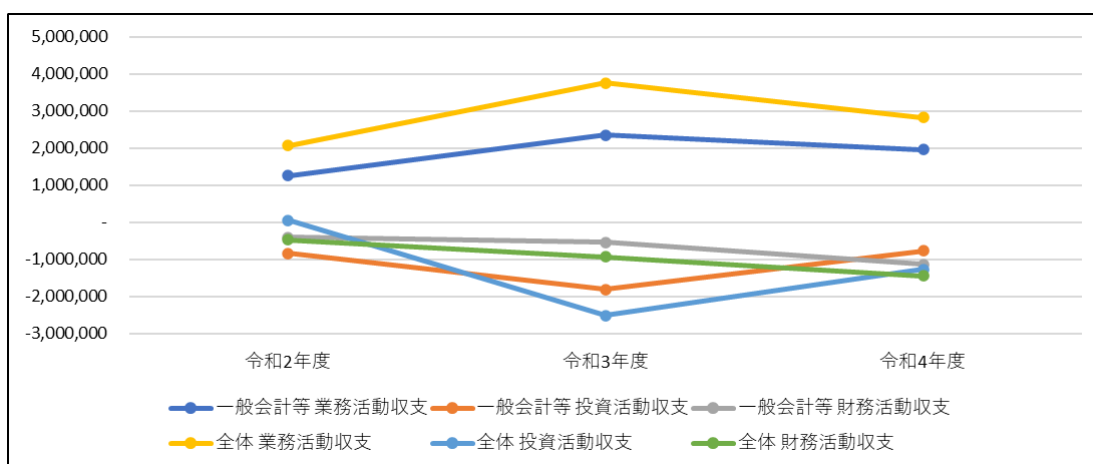
一般会計等において、本年度差額は722,960千円となり、前年度と比べ505,091千円減少していますが、財源でコストをまかなえたことを表しています。本年度純資産変動額は666,465千円となり、前年度と比べ554,259千円減少しています。

全体会計において、本年度差額は1,007,500千円となり、前年度と比べ507,261千円減少していますが、財源でコストをまかなえたことを表しています。本年度純資産変動額は1,277,091千円となり、前年度と比べ538,416千円減少しています。

④資金収支の状況

(単位：千円)

		赤磐市		
		令和2年度	令和3年度	令和4年度
一般会計等	業務活動収支	1,258,026	2,351,381	1,966,783
	投資活動収支	-836,756	-1,805,893	-772,124
	財務活動収支	-404,956	-534,938	-1,136,482
全体	業務活動収支	2,068,836	3,760,153	2,818,254
	投資活動収支	53,493	-2,507,112	-1,264,079
	財務活動収支	-468,822	-932,855	-1,446,983



一般会計等において、業務活動収支は1,966,783千円となり、前年度に比べ384,598千円減少しています。これは、国県等補助金の減少が主な要因です。投資活動収支は△772,124千円となり、前年度と比べ1,033,769千円増加しています。これは公共施設等整備費支出の減少が主な要因です。財務活動収支は△1,136,482千円となり、前年度に比べ601,544千円減少しています。これは地方債償還支出の増加が主な要因です。

全体会計においては、業務活動収支は2,818,254千円となり、前年度に比べ941,899千円減少しています。これは一般会計等の減少要因同様、国県等補助金の減少、また使用料及び手数料収入の減少が主な要因です。投資活動収支は△1,264,079千円となり、前年度に比べ1,243,033千円増加しています。これは一般会計等の増加要因同様公共施設等整備費支出の減少が主な要因です。財務活動収支は△1,446,983千円となり、前年度と比べ514,128千円減少しています。これは一般会計等の地方債償還支出の増加が主な要因です。

5.勘定科目解説

●貸借対照表

勘定科目	内容説明
【資産の部】	
固定資産	土地や建物などで1年を超えて利用する資産
有形固定資産	固定資産のうち目に見える資産
事業用資産	インフラ資産及び物品以外の有形固定資産
土地	庁舎、福祉施設、教育施設等の土地
立木竹	地面から生えている立木と立竹
建物	庁舎、福祉施設、教育施設など
工作物	プール、テニスコート、ごみ処理施設など
船舶	水上を航行する乗り物
浮標等	浮標、浮棧橋、(船舶の修理の)浮きドック
航空機	人が乗って空を飛ぶことができる乗り物
その他	事業用資産のうち勘定科目に該当がない資産
建設仮勘定	建設中の事業用資産に支出した金額
インフラ資産	道路、河川、港湾、公園、防災(消防施設を除く)、上下水道施設に限定される
土地	インフラ資産とされた施設等の底地
建物	インフラ資産とされた施設等の建物
工作物	道路、公園、護岸工事、橋りょう、上下水道など
その他	上記外のインフラ資産
建設仮勘定	建設中のインフラ資産に支出した金額
物品	車両、物品、美術品
無形固定資産	物的な存在形態をもたない資産、地上権、著作権、特許権など
ソフトウェア	研究開発費に該当しないソフトウェア製作費
その他	ソフトウェアを除く無形固定資産
投資その他の資産	投資及び出資金、投資損失引当金、長期延滞債権、長期貸付金、基金、徴収不能引当金など
投資及び出資金	有価証券、出資金など
有価証券	株券、公債証券などの債権等
出資金	公有財産として管理されている出資等
その他	有価証券、出資金を除く投資及び出資金
投資損失引当金	投資及び出資金の実質価額が著しく低下した場合に計上する引当金

勘定科目	内容説明
長期延滞債権	滞納繰越調定収入未済分(債権としての金額が確定していて、入金となっていないもの)
長期貸付金	貸付金のうち流動資産に区分されるもの以外
基金	流動資産に区分される基金以外の基金
減債基金	地方債の償還のための積立金で、流動資産に区分されるもの以外
その他	減債基金及び財政調整基金以外の基金
徴収不能引当金	投資その他の資産のうち、徴収不能実績率などにより算定した引当金
流動資産	資産のうち、通常1年以内に現金化、費用化できるもの
現金預金	現金(手許現金及び要求払預金)及び現金同等物
未収金	現年度に調定し現年度に収入未済のもの
短期貸付金	貸付金のうち、翌年度に償還期限が到来するもの
基金	財政調整基金及び減債基金のうち流動資産に区分されるもの
財政調整基金	財政の健全な運営のための積立金
減債基金	地方債の償還のための積立金
棚卸資産	売却を目的として保有している資産
その他	上記及び徴収不能引当金以外の流動資産
徴収不能引当金	未収金等のうち回収の見込みがないと見積もった金額
【負債の部】	
固定負債	支払期限が1年を超えて到来する負債
地方債等	地方債のうち償還予定が1年超のもの
長期未払金	債務負担行為で確定債務とみなされるもの及びその他の確定債務のうち流動負債に区分されるもの以外のもの
退職手当引当金	年度末に全職員が自己都合で退職した場合に支払うべき金額から、外部に積み立てている金額を差し引いた金額
損失補償等引当金	第三セクター等の債務のうち、将来自治体の負担となる可能性があるとして見積もった金額
その他	上記以外の固定負債
流動負債	支払期限が1年以内に到来する金額
1年内償還予定地方債等	地方債のうち、翌年度償還を予定しているもの
未払金	支払義務が確定している金額
未払費用	支払義務が到来していないが、既に提供された役務に対して未払いの金額
前受金	代金の納入は受けているが、これに対する義務の履行を行っていない金額
前受収益	未だ提供していない役務に対して支払いを受けている金額
賞与等引当金	翌年度支払いが予定されている賞与等のうち、当年度負担分の金額

勘定科目	内容説明
預り金	第三者からの預り金
その他	上記以外の流動負債
【純資産の部】	
固定資産等形成分	資産形成のために充当した資源の蓄積、自治体が調達した資源を充当して資産形成を行った場合で、その資産の残高(減価償却累計額の控除後)
余剰分(不足分)	自治体の費消可能な資源の蓄積をいい、原則として金銭の形態で保有

●行政コスト計算書

勘定科目	内容説明
経常費用	毎会計年度、経常的に発生する費用
業務費用	人件費、物件費等、その他の業務費用
人件費	職員給料などの人にかかる費用
職員給与費	職員等に対する勤労の対価や報酬として支払われる費用
賞与等引当金繰入額	賞与等引当金の当該年度発生額
退職手当引当金繰入額	退職手当引当金の当該年度発生額
その他	上記外の人件費
物件費等	物件費、維持補償費、減価償却費など
物件費	職員旅費、委託料、消耗品費など
維持補修費	資産の機能維持のために必要な修繕費等
減価償却費	使用や時間の経過に伴う資産の価値減少額
その他	上記以外の物件費等
その他の業務費用	支払利息、徴収不能引当金繰入額等
支払利息	地方債等にかかる利息負担金額
徴収不能引当金繰入額	徴収不能引当金の当該年度発生額
その他	上記以外の業務費用
移転費用	経常的に発生する非対価性の支出
補助金等	政策目的による補助金等
社会保障給付	社会保障給付としての扶助費等
他会計への繰出金	他会計への繰出金
その他	上記以外の移転費用
経常収益	毎会計年度、経常的に発生する収益
使用料及び手数料	使用料、手数料の形で徴収する金銭
その他	上記以外の経常収益
純経常行政コスト	毎会計年度、経常的に発生する行政コスト(経常費用－経常収益)
臨時損失	臨時に発生する費用
災害復旧事業費	災害復旧にかかる費用
資産除売却損	資産を売却して損失が発生した場合の金額
投資損失引当金繰入額	投資損失引当金の当該年度発生額
損失補償等引当金繰入額	損失補償費引当金の当該年度発生額
その他	上記以外の臨時損失
臨時利益	臨時に発生する利益

勘定科目	内容説明
資産売却益	資産を売却した際に、売却額が帳簿価格を上回る金額
その他	上記以外の臨時収益
純行政コスト	純経常行政コスト－臨時収益＋臨時損失

●純資産変動計算書

勘定科目	内容説明
前年度末純資産残高	前年度末の純資産の残高
純行政コスト(△)	行政コスト計算書で計算された費用に関する財源措置
財源	純資産の財源をどのように調達したかの分類
税収等	地方税、地方交付税及び地方譲与税等
国県等補助金	国庫支出金及び都道府県支出金等
本年度差額	前年度純資産残高－純行政コスト+財源
固定資産等の変動(内部変動)	有形固定資産等の増加や減少、貸付金・基金等の増加や減少を再掲
有形固定資産等の増加	有形固定資産及び無形固定資産の形成による保有資産の増加額または有形固定資産及び無形固定資産の形成のために支出した金額
有形固定資産等の減少	有形固定資産及び無形固定資産減価償却費相当額及び除売却による減少額、または有形固定資産及び無形固定資産の売却収入(元本分)、除却相当額及び自己金融効果を伴う減価償却相当額
貸付金・基金等の増加	貸付金・基金等の形成による保有資産の増加額または新たな貸付金・基金等のために支出した金額
貸付金・基金等の減少	貸付金の償還及び基金の取崩等による減少額または貸付金の償還収入及び基金の取崩収入相当額
資産評価差額	有価証券等の評価差額
無償所管換等	無償で譲渡、または取得した固定資産の評価額
その他	上記以外の純資産及びその他内部構成の変動
本年度純資産変動額	「本年度差額」「資産評価額」「無償所管換等」「その他」を増減した金額
本年度末純資産残高	「前年度末純資産残高」に「本年度純資産変動額」を増減した金額

●資金収支計算書

勘定科目	内容説明
【業務活動収支】	
業務支出	自治体の運営上、毎年度経常的に支出されるもの
業務費用支出	人件費、物件費、支払利息などの支出
人件費支出	議員歳費、職員給料、退職金などの支出
物件費等支出	物品購入費、維持修繕費、業務費などの支出
支払利息支出	地方債等に係る支払利息の支出
その他の支出	上記以外の業務費用支出
移転費用支出	経常的に発生する非対価性の支出
補助金等支出	各種団体への補助金等に係る支出
社会保障給付支出	生活保護費などの社会的給付に係る支出
他会計への繰出支出	他の会計への繰出に係る支出
その他の支出	上記以外の移転支出
業務収入	市政運営上、毎年度経常的に収入されるもの
税収等収入	住民税や固定資産税などの収入
国県等補助金収入	国県等からの補助金のうち、業務支出の財源に充当した収入
使用料及び手数料収入	使用料及び手数料の収入
その他の収入	上記以外の業務収入
臨時支出	災害復旧事業費などの支出
災害復旧事業費支出	災害復旧事業費に係る支出
その他の支出	災害復旧事業費以外の臨時支出
臨時収入	臨時にあった収入
業務活動収支	(「業務収入」－「業務支出」)+(「臨時収入」－「臨時支出」)
【投資活動収支】	
投資活動支出	投資活動に係る支出
公共施設等整備費支出	有形固定資産等形成に係る支出
基金積立金支出	基金積立に係る支出
投資及び出資金支出	投資及び出資金に係る支出
貸付金支出	貸付金に係る支出
その他の支出	上記以外の投資活動支出
投資活動収入	投資活動に係る収入

勘定科目	内容説明
国県等補助金収入	国県等補助金のうち、投資活動支出の財源に充当した収入
基金取崩収入	基金取崩による収入
貸付金元金回収収入	貸付金に係る元金回収収入
資産売却収入	資産売却による収入
その他の収入	上記以外の投資活動収入
投資活動収支	「投資活動収入」－「投資活動支出」
【財務活動収支】	
財務活動支出	地方債償還に係る支出など
地方債等償還支出	地方債に係る元本償還の支出
その他の支出	地方債償還支出以外の財務活動支出
財務活動収入	地方債発行による収入など
地方債等発行収入	地方債発行による収入
その他の収入	地方債発行収入以外の財務活動収入
財務活動収支	「財務活動収入」－「財務活動支出」
本年度資金収支額	「業務活動収支」＋「投資活動収支」＋「財務活動収支」
前年度末資金残高	前年度末の資金残高
本年度末資金残高	「前年度末資金残高」＋「本年度資金収支額」

前年度末歳計外現金残高	前年度の歳計外現金残高
本年度歳計外現金増減額	本年度の歳計外現金の増減額
本年度歳計外現金残高	「前年度歳計外現金残高」＋「本年度歳計外現金増減額」
本年度現預金残高	「本年度資金残高」＋「本年度歳計外現金残高」